

# 総会宣言

JR 東労組ネイチャークラブは10月30日、高崎アーバンホテル会議室において第27回総会を開催し、スローガンをはじめとする運動方針と職場に現れた命と安全を脅かす事象に対し全組合員で立ち向かっていくことを満場一致で確認した。

昨日、第27回の例会を開催し、1985年8月、日航ジャンボ機墜落事故で亡くなられた520人の御霊に哀悼の意を表し、JRの安全と職場風土の再確立のたたかいを改めて決意した。

小説「沈まぬ太陽」（山崎豊子著）に登場する国航の労組介入による弱体化の手段は、一部機長を取込み役員選挙への介入、第二組合の設立、更には機長全員管理職制度と発展。「組合の人間は機長にしない」「いずれ君の職場はなくなる。会社に逆らうとバスに乗り遅れる」と執拗な脱退工作が進められた。このような労務政策の最中、精神的に追い詰められ、物言えぬ職場となり、御巢鷹山の事故が発生してしまう。その前段では「人員不足による過重労働」によって整備士の死亡事故や、世界各国で日航による航空事故が連続発生した。「教育不足」「社内規定違反」「運航優先」に陥る職場風土に起因するものだ。主人公は、「このままでは更に大きな事故が発生しかねない」と危惧していた矢先の墜落事故であった。

国府津運輸区や宇都宮運輸区に現れた懲罰的日勤教育によって、組合員が病欠や医療保護入院まで追い込まれた。また豊田運輸区では、人間破壊の事前通知が行われ、医師の診断を反故にし、面談の中で恫喝し、病気休職に追い込まれた。懲罰的日勤教育や人権侵害、人間破壊を正当化する官僚的かつ傲慢な経営姿勢は、小説内の国航となんら変わるものではない。我々は安全第一を価値基軸に組合員を守るために不条理な会社姿勢とたたかう。

かつて国鉄改革の前夜、熾烈に掛けられた労組破壊は、日航での労務政策と時期が合致する。小説内で描かれている政治家との癒着、利権争いは日本労働運動にかけられた攻撃として国策であったと回想する。今こそ「沈まぬ太陽」を今一度捉えかえし、広めよう。

ネイチャークラブは、「人間」は「自然」の中の一部との考えで、「自然を破壊するものとたたかう」との理念から発足した。今なお終息の兆しが見えないロシアによるウクライナ侵攻の「平和問題」、世界各地で甚大化し発生する「自然災害」など、問題意識を広め、「自然と人間」を破壊するものとたたかおう。

そのために、故山崎豊子さんが紹介したゲーテの言葉を引用する。

『金銭を失うこと、それは又働いて貯えればよい。名誉を失うことそれは、名誉を挽回すれば世の人々は見直してくれるであろう。勇気を失うこと、それはこの世に生まれてこなかった方が良かったであろう』何と厳しい言葉でしょう。どんなに正しい考えを持っても実践に移すのは「勇気」なんです」

「たたかおう 勇気持って 起ちあがれ 東労組」

以上宣言する。

2023年10月30日  
JR東労組ネイチャークラブ  
第 27 回 総 会